

東日本旅客鉄道株式会社

個人投資家向け会社説明会

総務・法務戦略部(法務ユニット)

マネージャー 青木 義和



1. 会社概要・決算状況
2. 中長期の経営戦略
3. 注目の施策・取組み
4. 株式関係

1. 会社概要・決算状況

1. 会社概要・決算状況



1987年4月

日本国有鉄道 分割民営化

JR東日本が発足→東日本エリアをカバー

1. 会社概要・決算状況

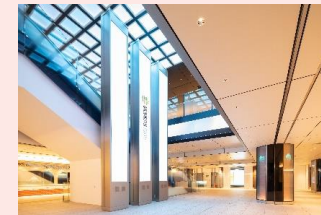
運輸

- 新幹線
- 在来線
- バス
- 車両製造



流通・サービス

- リテール
- 広告・出版
- 海外



不動産・ホテル

- 不動産保有・活用
- 不動産回転
- マネジメント



その他

- Suica・金融
- 海外鉄道
- エネルギー
- 建設



1. 会社概要・決算状況



駅のコンビニ「NewDays」



駅弁屋「祭」



KINOKUNIYA entrée



ベックスコーヒーショップ



From AQUA(フロムアクア)



ecute



ルミネ



アトレ



メトロポリタンホテルズ



ホテルメッツ



フィットネスクラブ「JEXER」



GALA湯沢



オレンジページ



ビューカード



JRE BANK

グループ理念

私たちは「**究極の安全**」を第一に行動し、
グループ一体でお客さまの信頼に応えます。
技術と情報を中心にネットワークの力を高め、
すべての人の心豊かな生活を実現します。

JR東日本グループの強み

「信頼」

「究極の安全」を追求
お客さまや地域の皆さまからの「信頼」

「社員」

グループ全体の融合と連携に挑戦
新たな価値を創造する「社員」



「ネットワーク」

リアルのネットワーク
(鉄道、販売、物流)



デジタルのネットワーク
(Suica共通基盤、JRE POINT生活圈)

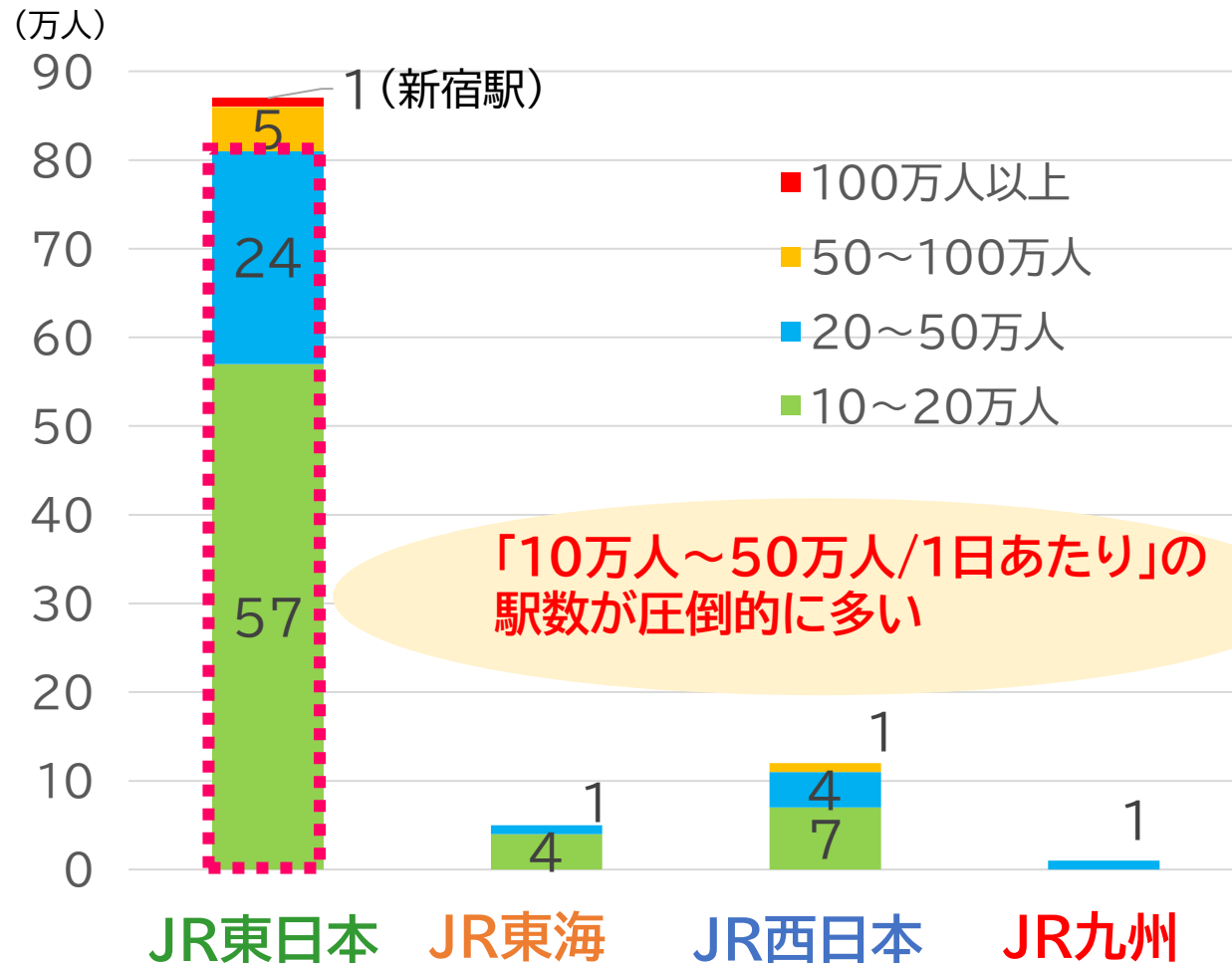
1. 会社概要・決算状況

■リアルなネットワークの強み

1日あたり
約1,560万人
のお客さまが利用

当社エリアの総人口の約4分の1が
毎日当社鉄道を利用

(参考)乗降人数の多い駅 (2023年度)



各社発表データより

1. 会社概要・決算状況

■デジタルのネットワークの強み

Suica発行枚数

1億311万枚

対前年 **108%**

モバイルSuica発行枚数

2,621万枚

対前年 **129%**

交通系電子マネー
月間利用件数

2億9,000万件

対前年 **114%**

JRE POINT会員数

1,501万人

対前年 **109%**

ビューカード会員数

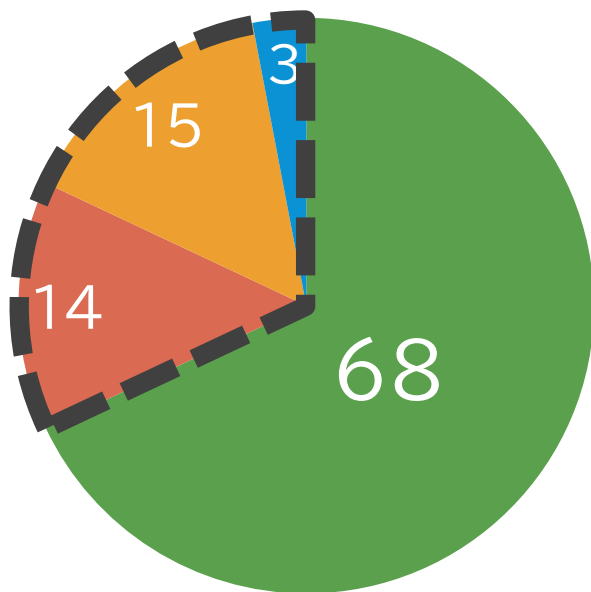
570万人

対前年 **102%**

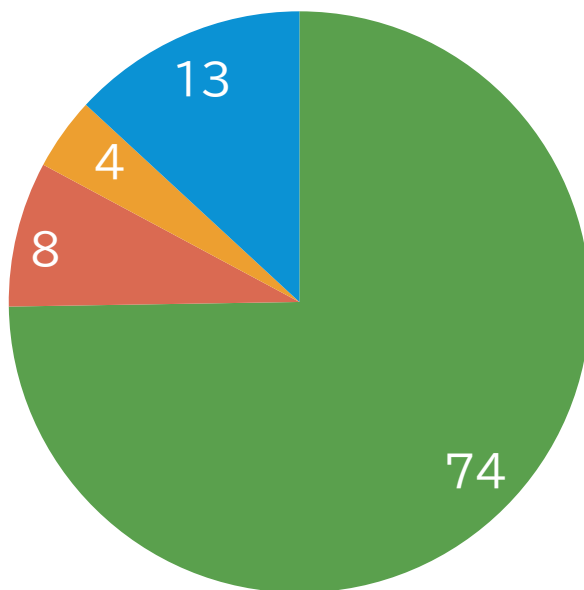
1. 会社概要・決算状況

■【JR上場4社比較】セグメント別の収益比率(2023年度) (数字は%) ※各社決算データより

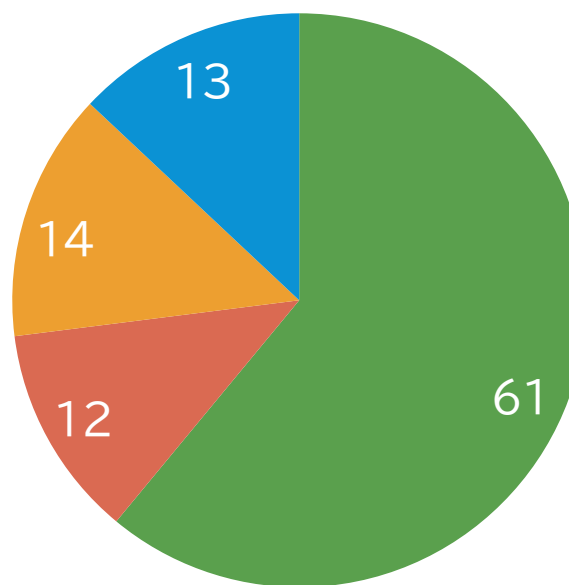
JR東日本



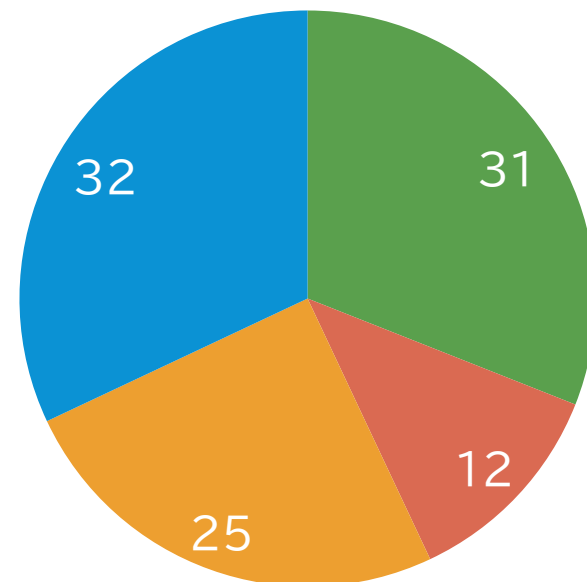
JR東海



JR西日本



JR九州



■ 運輸 ■ 流通等 ■ 不動産等 ■ その他

1. 会社概要・決算状況

■【JR4社比較】運輸収入に占める定期/定期外 新幹線/在来線比率(2023年度) (数字は%)

※各社有価証券報告書より

定期／定期外

新幹線／在来線

JR東日本

25

75

JR東日本

32



68



JR東海

3

97

JR東海

93

7

JR西日本

17

83

JR西日本

53

47

JR九州

21

79

JR九州

40

60

0%

50%

100%

■ 定期 ■ 定期外

0%

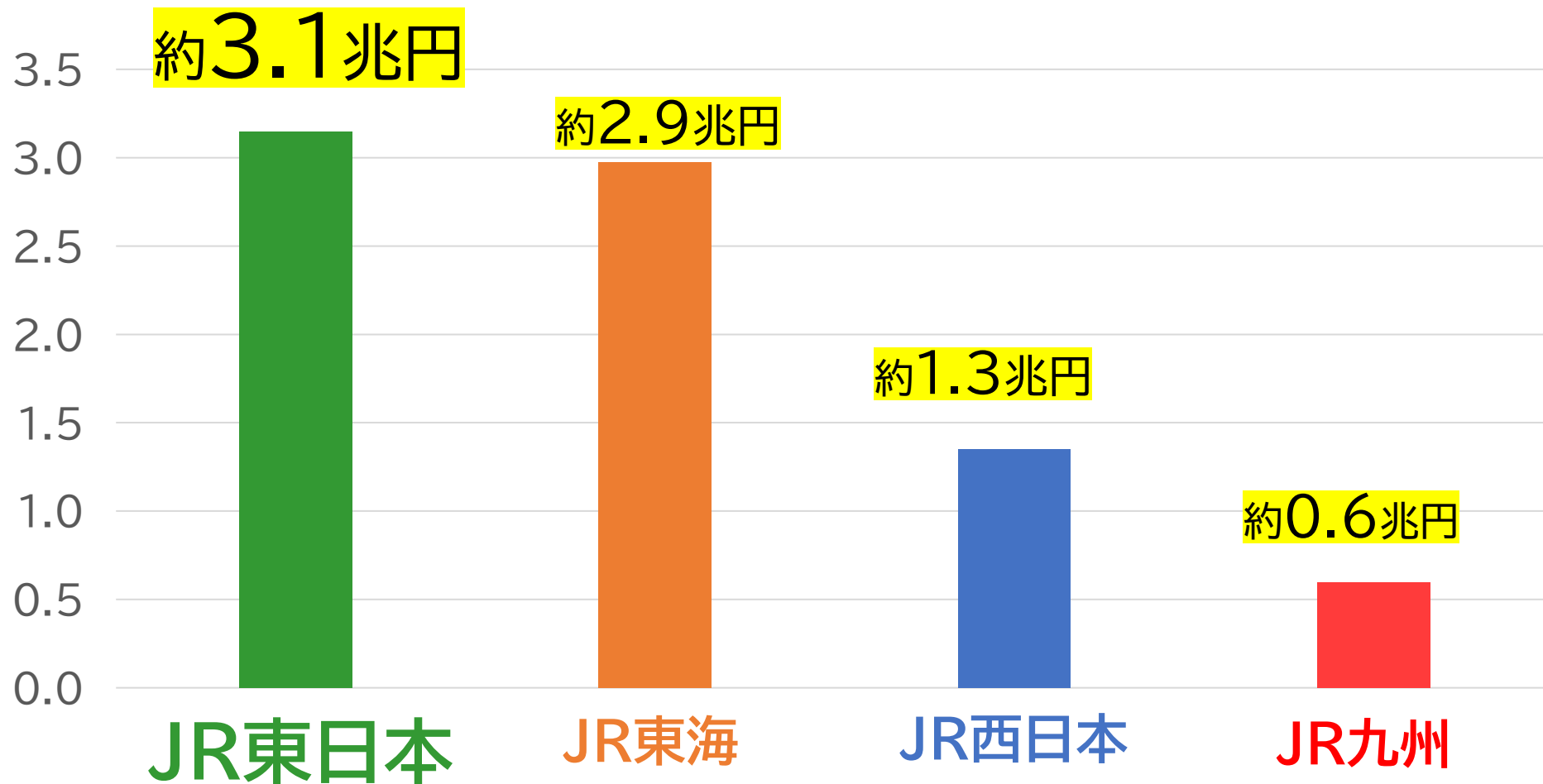
50%

100%

■ 新幹線 ■ 在来線

1. 会社概要・決算状況

■【JR4社比較】時価総額比較(2025年1月末) (数字は兆円)



第3四半期決算状況

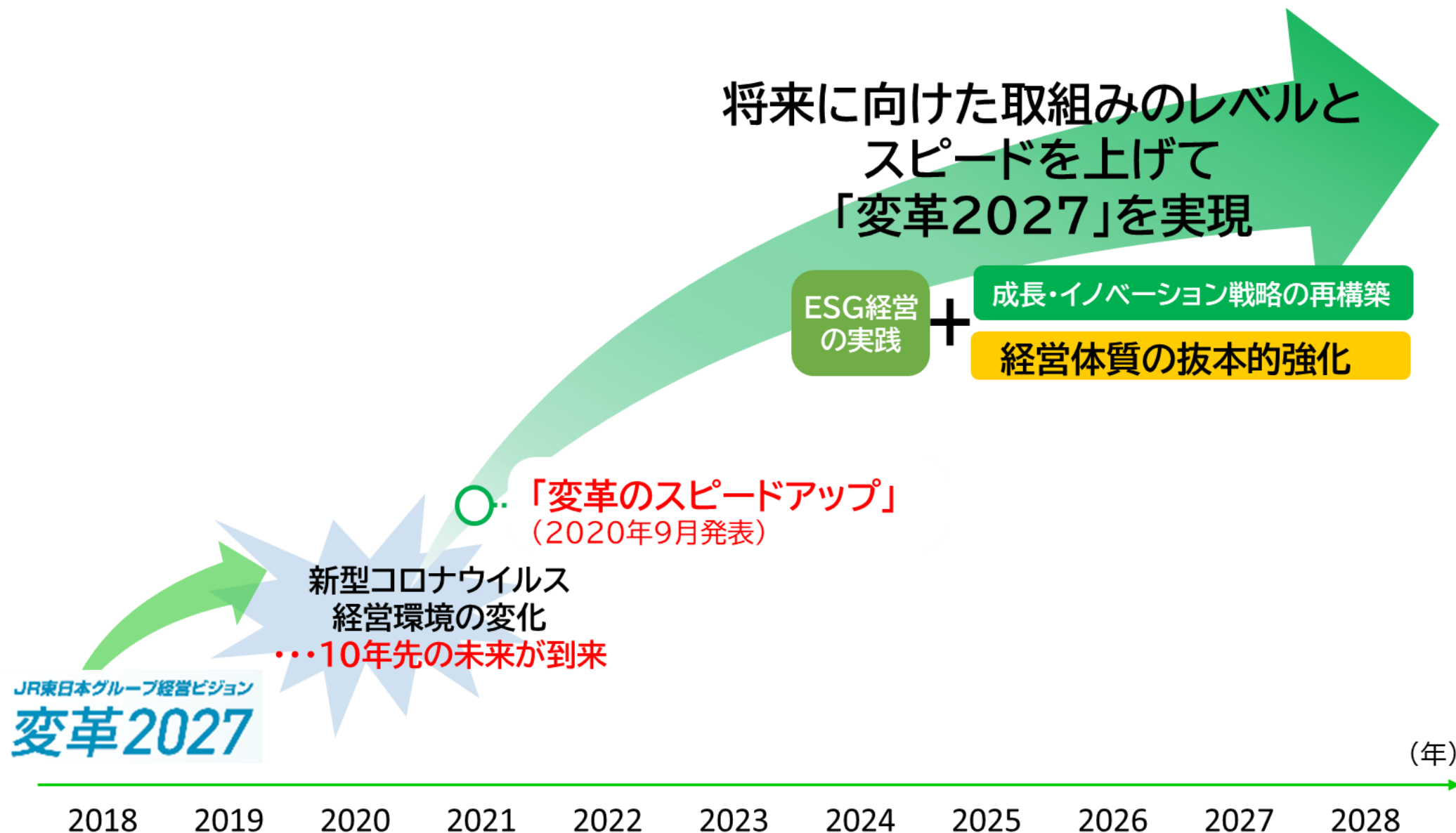
()内は対前年同期比

	2025年3月期第3四半期実績		通期計画 (2025年3月期)
営業収益	2兆1,260億円 (106.2%)	通期計画進捗率 74.5%	2兆8,520億円 (104.5%)
営業利益	3,525億円 (118.1%)	通期計画進捗率 95.2%	3,700億円 (107.2%)
経常利益	3,089億円 (119.0%)	通期計画進捗率 98.0%	3,150億円 (106.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,166億円 (110.8%)	通期計画進捗率 103.1%	2,100億円 (106.9%)

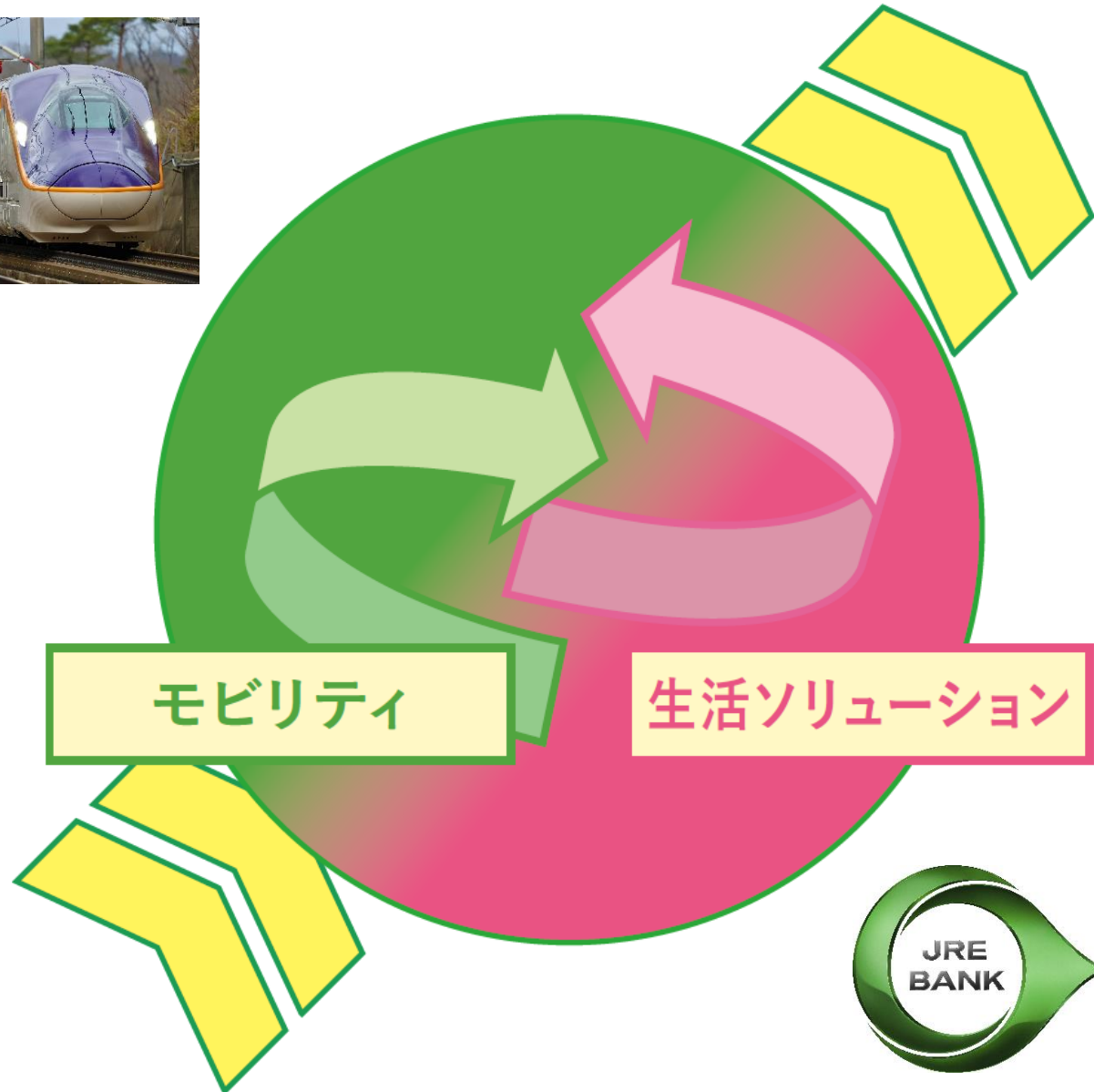
鉄道のご利用増、エキナカ店舗の売上増などにより、**増収増益**

2. 中長期の経営戦略

2. 中長期の経営戦略



2. 中長期の経営戦略



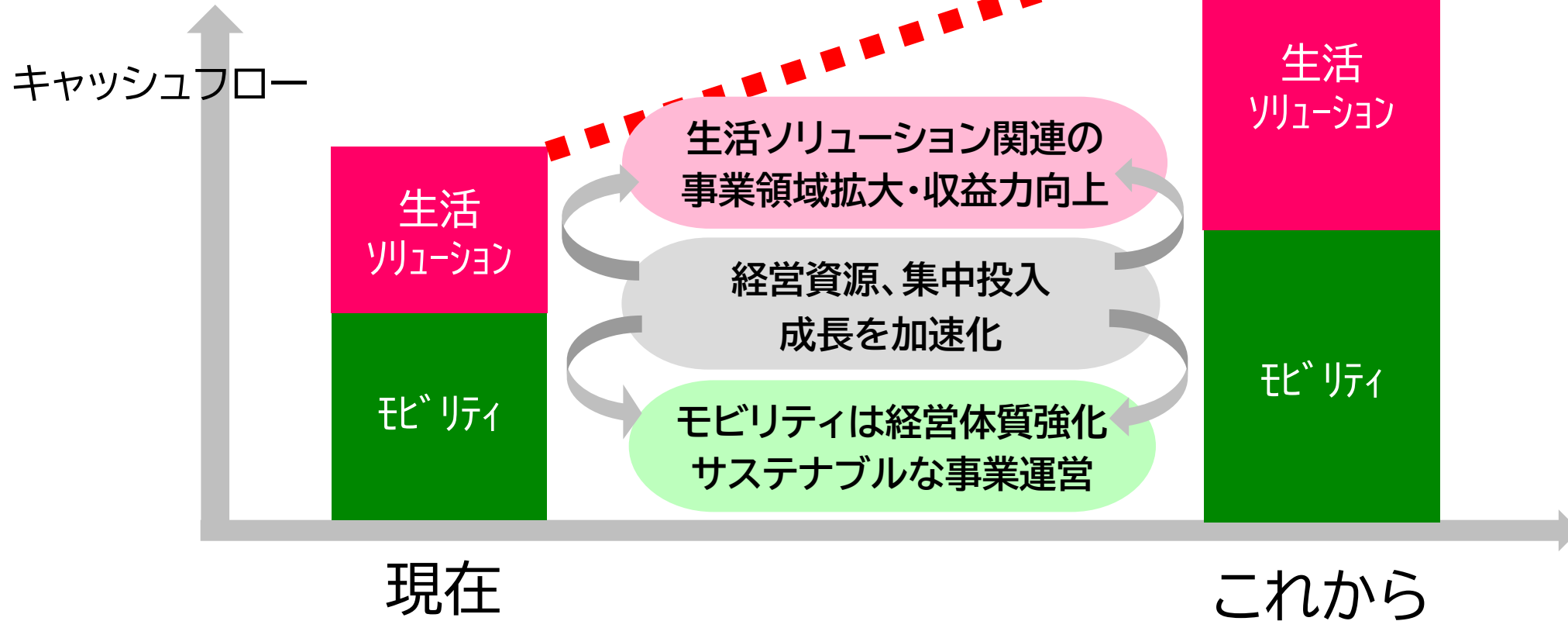
モバイル
Suica

2. 中長期の経営戦略

モビリティ
生活ソリューション



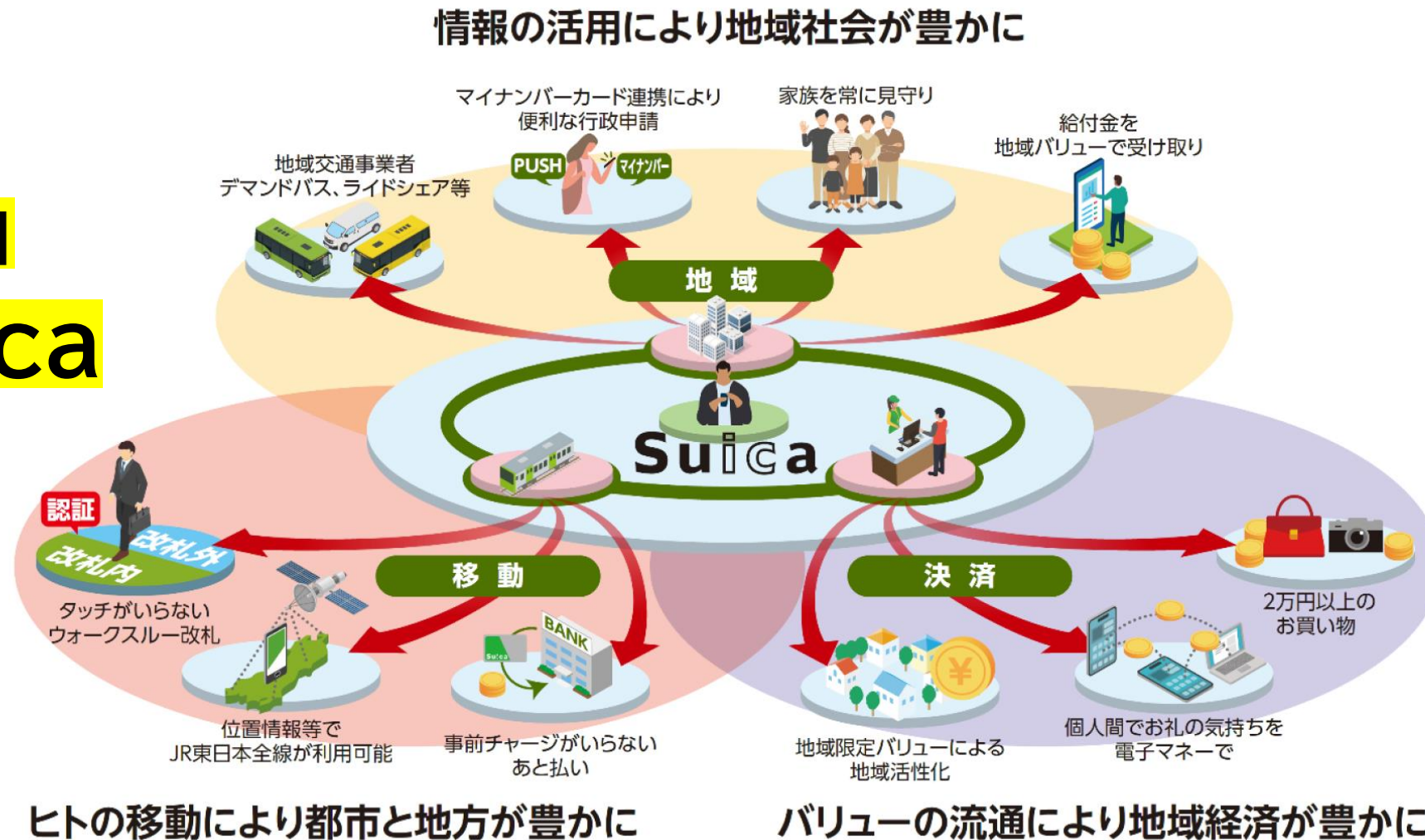
比率5:5の早期実現へ



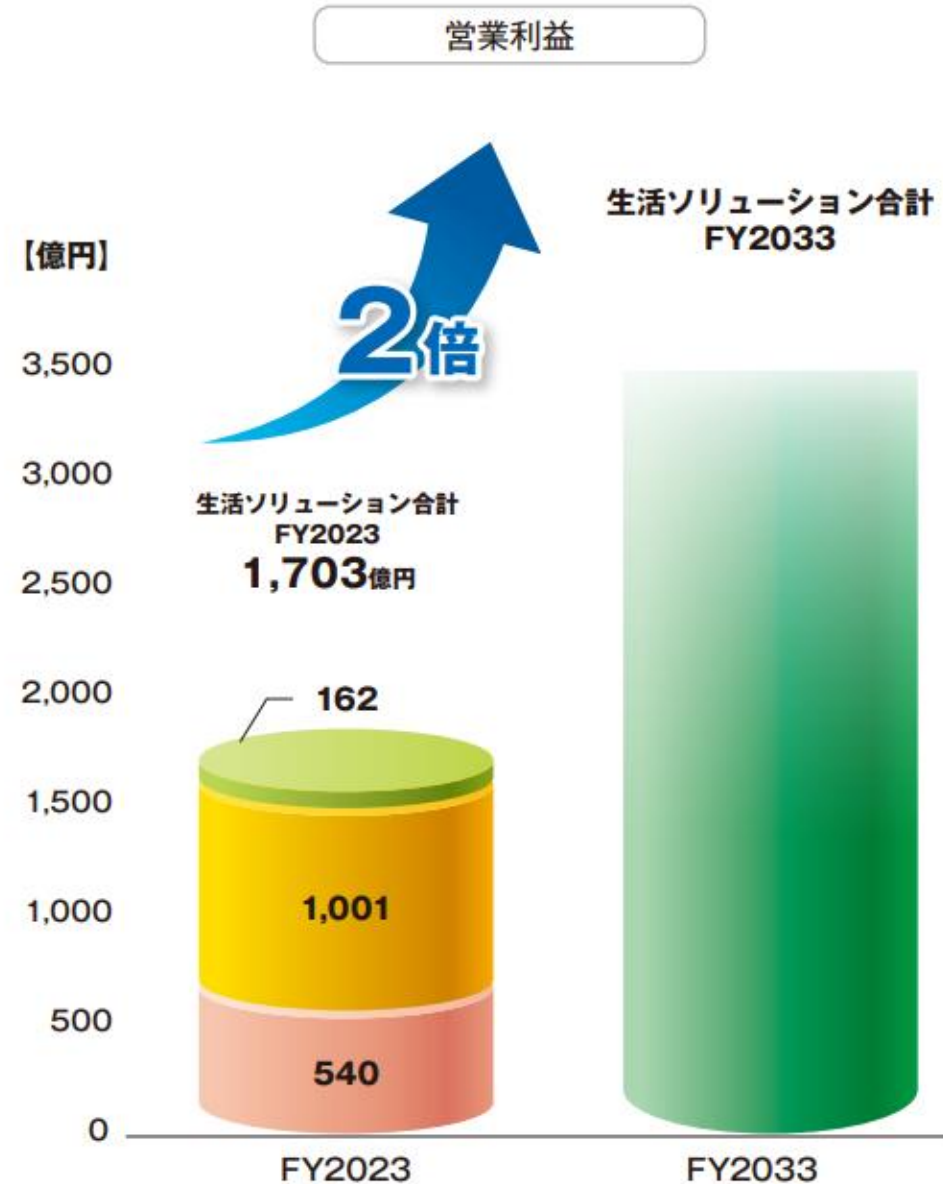
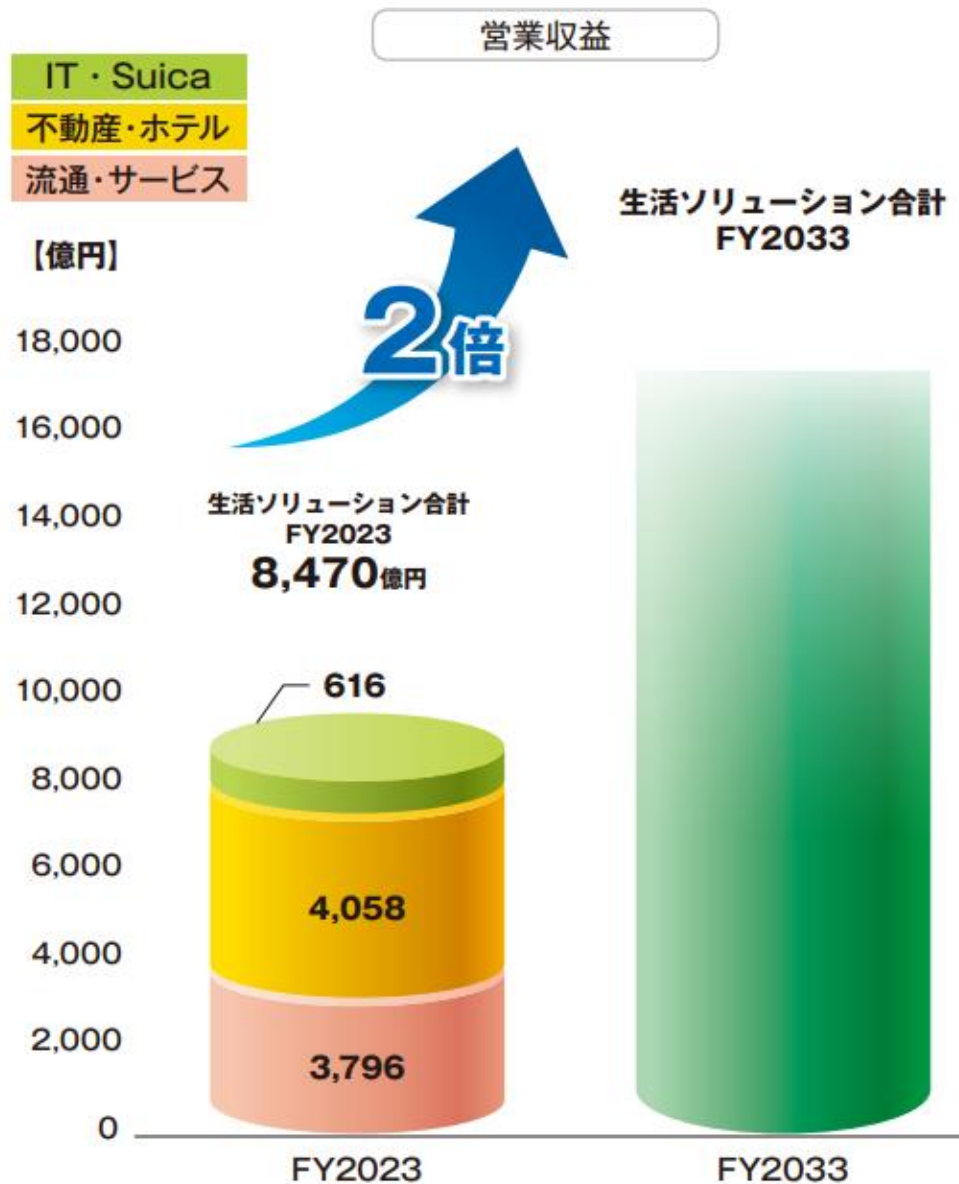
2. 中長期の経営戦略

中長期ビジネス成長戦略 「Beyond the Border」

「生活のデバイス」 としてのSuica



2. 中長期の経営戦略



YouTube動画

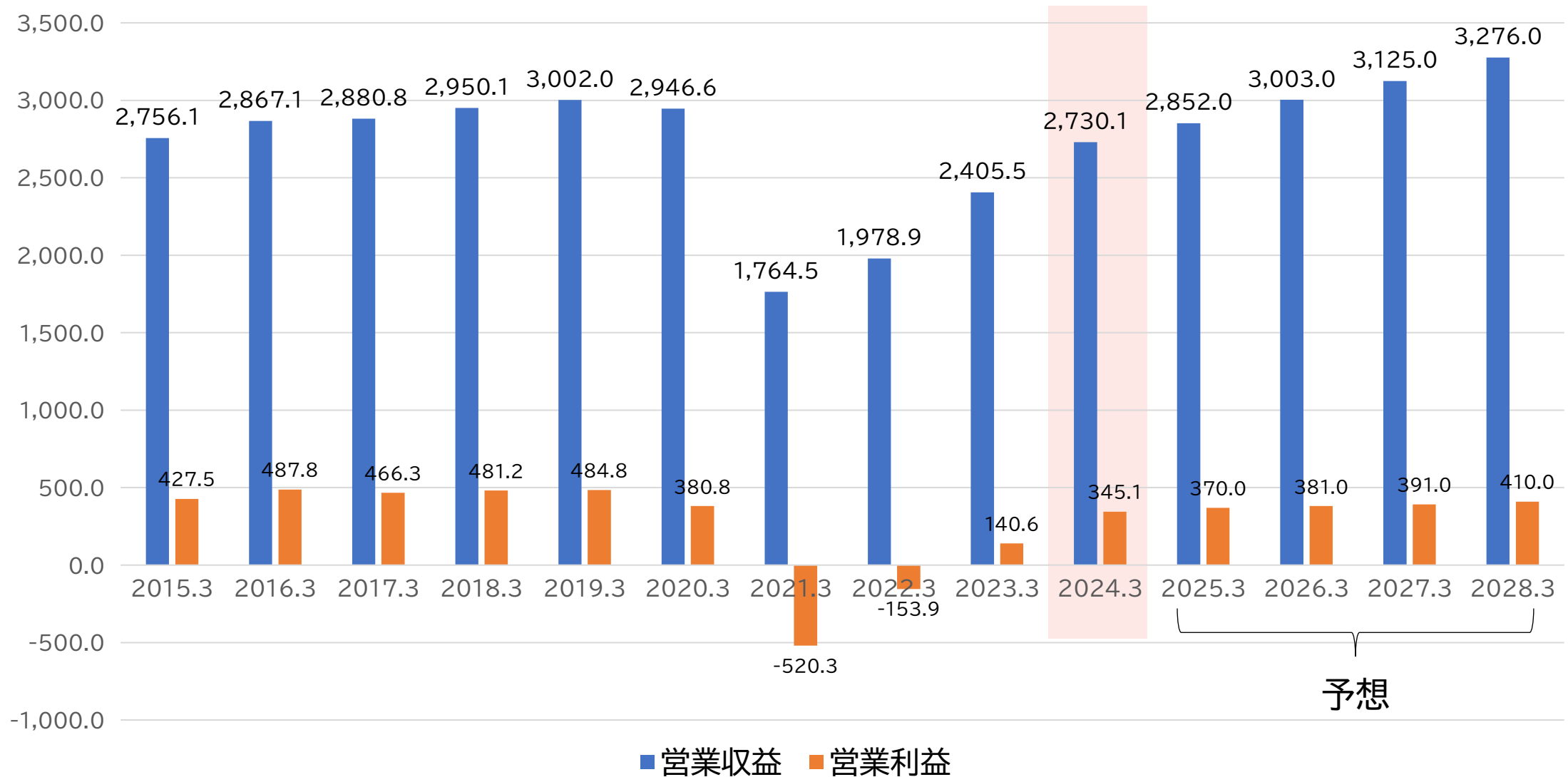


2. 中長期の経営戦略

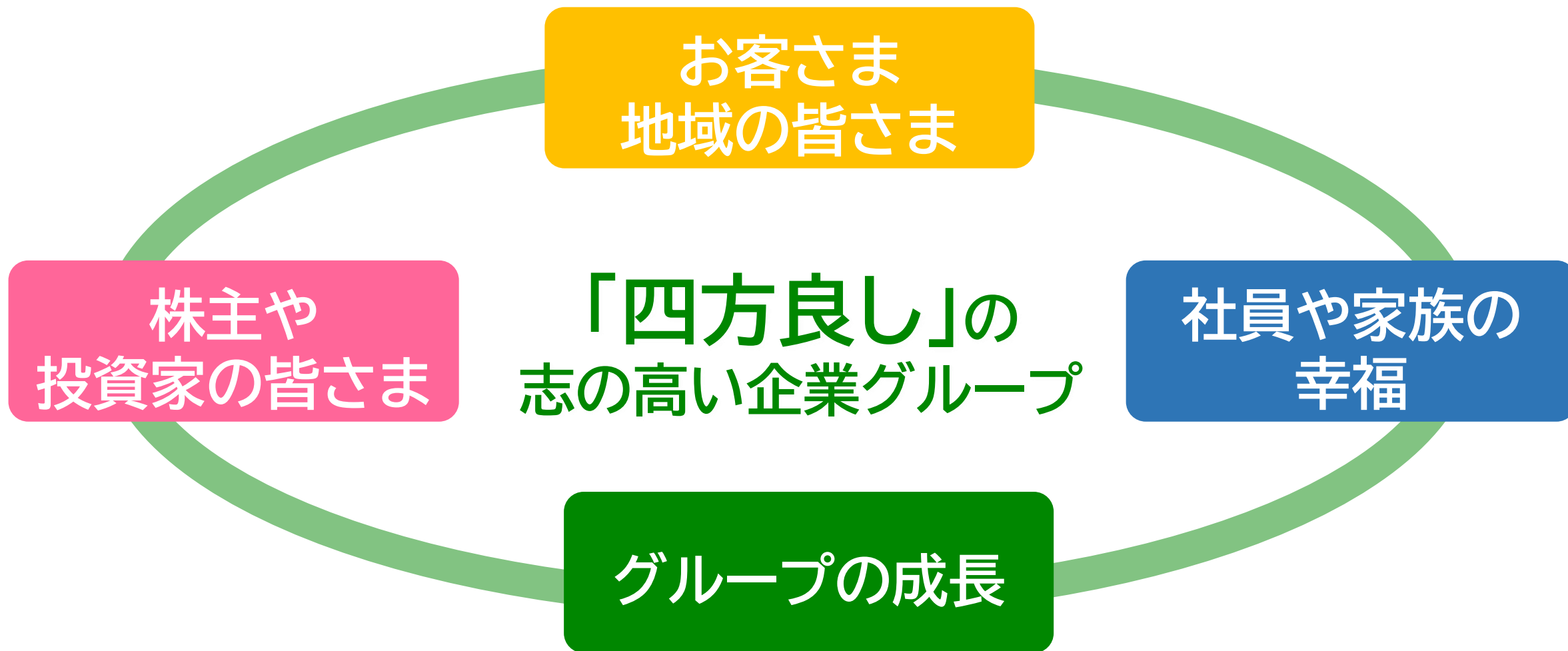
	2027年度目標	参考:2023年度実績
連結営業収益	3兆2,760億円	2兆7,301億円
連結営業利益	4,100億円	3,451億円
連結営業キャッシュ・フロー	(5年間の総額)3兆8,000億円	(単年)5,817億円
連結ROA	4.0%程度	3.6%
ネット有利子負債/EBITDA	中期的に5倍程度 長期的に3.5倍程度	8.6倍

2. 中長期の経営戦略

営業収益・営業利益推移(実績・予想)



2. 中長期の経営戦略

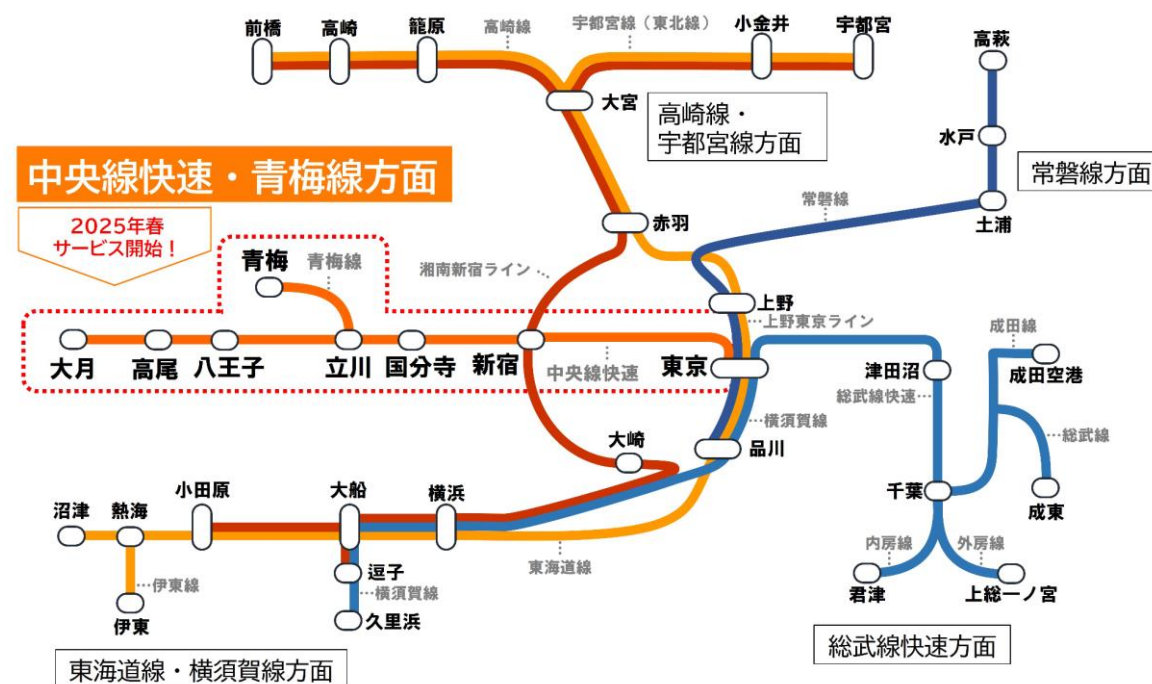


3. 注目の施策・取組み

3. 注目の施策・取組み

中央線快速・青梅線グリーン車サービスを導入

- ▶ 2024年10月～順次導入(お試し期間としてグリーン料金ナシで利用可能)
- ▶ 2025年3月15日～サービス開始予定



投資額 約860億円
増収効果 約80億円/年

3. 注目の施策・取組み

TAKANAWA GATEWAY CITY

▶ 100年先の心豊かなくらしのための実験場

2025年3月27日
まちびらき！



予定事業費 約6,000億円

営業収益 約570億円/年

3. 注目の施策・取組み

羽田空港アクセス線(仮称)

東山手ルート(2031年度開業予定)

東京駅から
羽田空港まで

現行	開業後
約30分	18分

12分短縮

臨海部ルート(東山手ルートとの同時開業 を目指し、関係者と協議・調整中)

新木場駅から
羽田空港まで

現行	開業後
約40分	20分

20分短縮



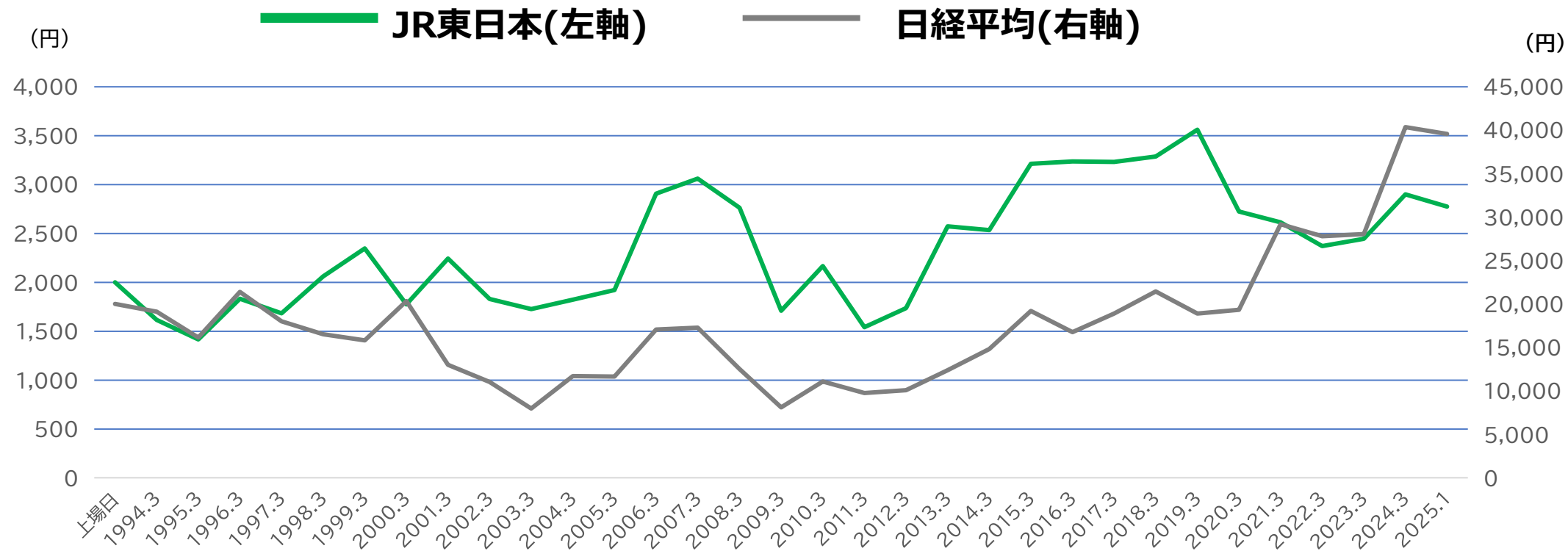
羽田空港アクセス線(仮称)ルート図

概算工事費 約2,800億円(※)

※概算工事費には、国の空港整備事業のうち、JR 東日本に關係するトンネル本体などの工事費(約 700 億円)を含む

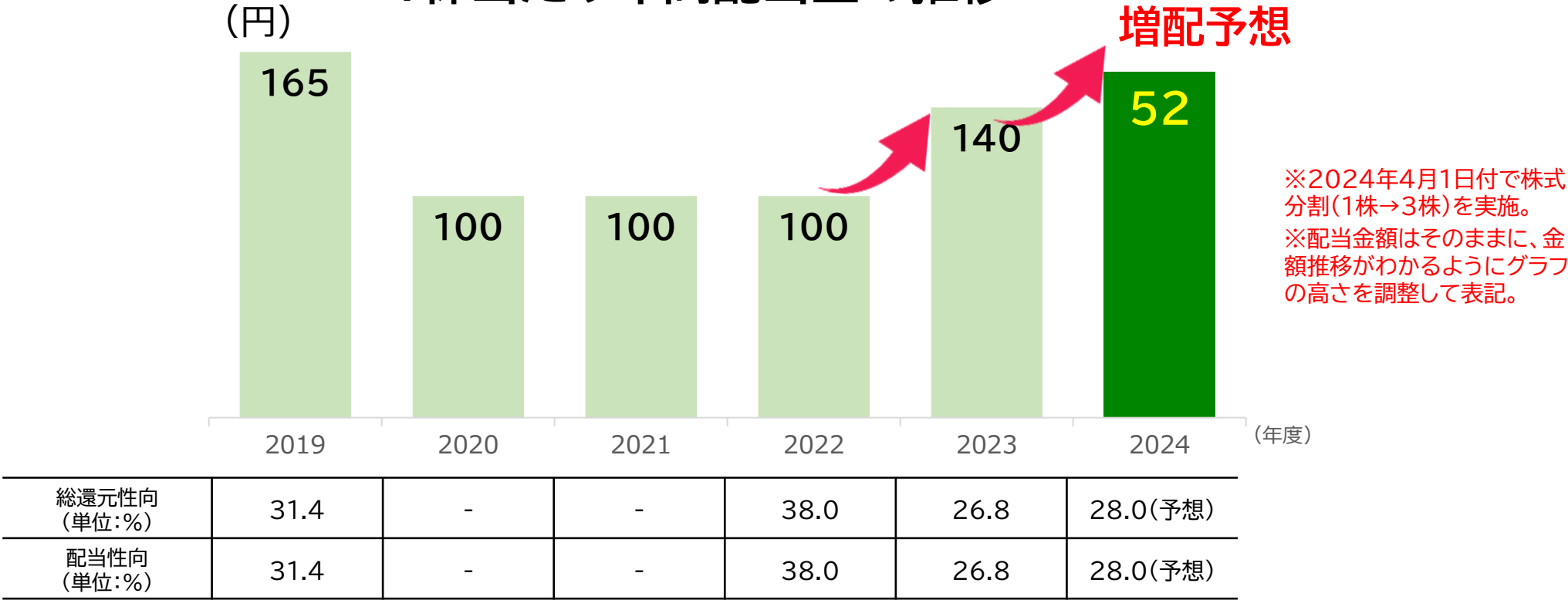
4. 株式関係

4. 株式関係



	JR東日本	JR東海	JR西日本	JR九州
2024年3月末 終値	2,919円	3,726円	3,137円	3,543円
2025年1月末 終値	2,774円	2,889円	2,863円	3,780円
2024年4月～2025年1月末 1日出来高平均	約297万株	約238万株	約181万株	約71万株

1株当たり年間配当金の推移



※n年度の総還元性向(%) =
$$\frac{(n\text{年度の年間配当額}) + (n+1\text{年度の自己株式取得額})}{n\text{年度の親会社株主に帰属する当期純利益}}$$

中長期的には、総還元性向は40%を目標とし、配当性向は30%をめざし、業績の動向をふまえて、安定的な配当の実施及び柔軟な自社株買いを行っていく。

4. 株式関係

	当社 2023.3 連結実績	当社 2024.3 連結実績	当社 2025.3 業績予想	プライム 平均	陸運業 平均
営業収益	2兆4,055億円	2兆7,301億円	2兆8,520億円	—	—
当期純利益	992億円	1,964億円	2,100億円	—	—
自己資本比率	26.4%	27.8%	—	34.4%	35.3%
ROA (総資産営業利益率)	1.5%	3.6%	3.7%	4.7%	4.2%
ROE (自己資本利益率)	4.1%	7.6%	—	9.5%	9.1%

※決算資料、有価証券報告書より
※プライム平均、陸運業平均の各数値は、東京証券取引所公表データより

4. 株式関係

	当社 2023.3 連結実績	当社 2024.3 連結実績	当社 2025.3 予想	プライム 平均	陸運業 平均
配当性向	38.0%	26.8%	28.0%	34.2%	22.5%
総還元性向	38.0%	26.8%	28.0%	—	—
PBR	1.1	1.2	—	1.4	1.2
PER	27.8	16.8	—	18.3	16.9
時価総額	2兆7,626億円	3兆3,024億円	—	—	—

※PBR(株価純資産倍率) = 時価総額 ÷ 純資産
= ROE × PER

※PER(株価収益率) = 時価総額 ÷ 当期純利益

※決算資料、有価証券報告書より

※プライム平均、陸運業平均の各数値は、東京証券取引所公表データより

資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応

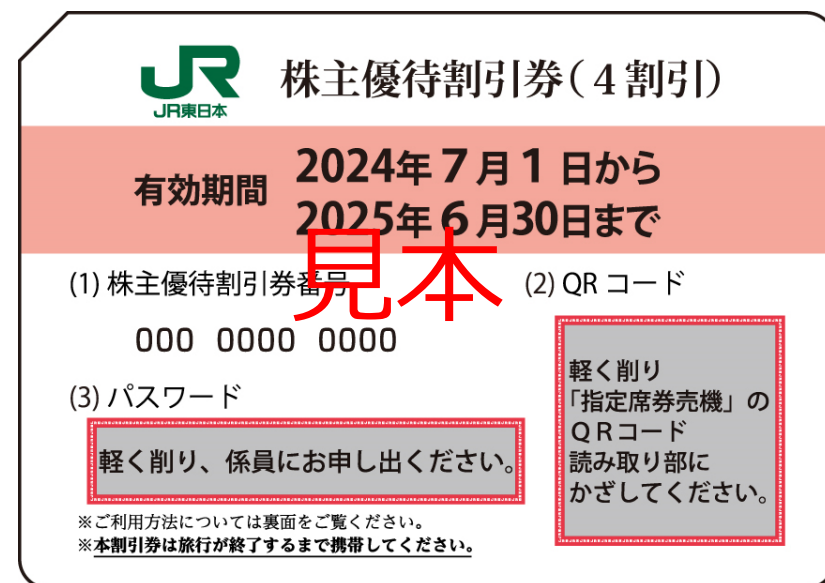


4. 株式関係

当社では、毎年3月31日時点で当社株式を300株(3单元)以上ご所有の株主の皆さまに、6月下旬頃、以下の株主優待を発行しております。

■株主優待割引券

1枚で乗車券・特急券が40%割引
株式分割により配付条件を拡充



4. 株式関係

株主サービス券

- ★電子化を実施(2024年6月優待から)
- ★コラボ株主優待も設定

電子版サービス券 メニュー	 ＜新設＞ JRE パスポート	JRE MALL JRE MALL クーポン	 株主さま優待価格宿泊券
	 直営レストラン・バー 割引券	 駅レンタカー割引券	 STATION BOOTH 利用券
	 ベックスコーヒーショップ ドリンク割引券	 いりく庵さく・そばいち 選べるトッピング無料券	 リラクゼ料金割引券



紙のサービス券 メニュー	 鉄道博物館入館割引券	 東京ステーションギャラリー 入館割引券	 GALA 湯沢スキー場 株主様優待リフト券引換券
	 株式会社西武ホールディングス とのコラボ株主優待券		 東急不動産ホールディングス 東急不動産ホールディングス株式会社 とのコラボ株主優待券

4. 株式関係

■株主イベント

信濃川発電所等見学(60名様)



ジェフユナイテッド市原・千葉
親子サッカー教室 (30名様)



駅弁製造工場見学(16名様)



都市対抗野球大会招待
(40名様)



株主懇談会(水戸／盛岡)(各25名様)



みんなの
おそうじアカデミー(20名様)



JR東日本資源循環センター
見学(20組40名様)



JR東日本メカトロニクス
機械設備技術研修センター見学
見学(8組16名様)



株主さま限定イベントを、**多数**実施！

メルマガ登録者限定！

4. 株式関係

2月

株主懇談会(研究開発センター)
(25名様)



鉄道博物館ナイトミュージアム
(500組2,000名様)



来年度も
ご期待ください！

3月

新幹線総合車両センター特別見学
JRフルーツパーク仙台あらはま見学(40組80名様)



TAKANAWA GATEWAY CITY
特別見学(40組80名様)



4. 株式関係

ご登録はこちらから↓ 登録無料です！！

メルマガサービスのご案内

IR情報（株主・投資家の皆さまへ）

Sustainability

ニュースリリース

サ

企業サイトトップ > IR情報 > 株主・個人投資家向けIRメール配信サービス

株主・個人投資家向けIRメール配信サービス

「株主・個人投資家向けIRメール配信サービス」は、以下の情報などを、本サービスご登録の皆さま宛に電子メールにて配信するサービスです。

- 決算短信、有価証券報告書等のお知らせ
- 株主総会に関するお知らせ
- 株主優待に関するお知らせ
- その他、個人向けのIR情報

【新規登録（無料）】

配信をご希望の方は以下のバナーから配信登録サイトにアクセスし、ご登録ください。

IRメール配信サービス 配信登録サイト

※本サービスは三菱UFJ信託銀行株式会社が運営するIRメール配信サービスです。リンク先の配信登録サイトについても、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営するウェブサイトとなります。

CHECK !



■配信メール（一例）

■■■■■
■■■■■ 東日本旅客鉄道株式会社 IRメール
■■■■■
■■■■■ 配信日：2024年1月31日
■■■■■

<<更新情報>>

■JR東日本からのお知らせ

本日、以下プレスリリースをいたしましたので、お知らせいたします。

- ・2024年3月期 第3四半期決算短信（通期業績予想および配当予想の修正）
- ・株式分割および株式分割に伴う定款の一部変更ならびに株主優待制度の変更に関するお知らせ
- ・株主サービス券の一部メニューを電子化します
- ・東日本旅客鉄道株式会社と東急不動産ホールディングス株式会社
優待施設を相互利用できるコラボ株主優待券を発行！

詳細は各プレスリリース資料をご覧ください。

<https://www.jreast.co.jp/press/>



【将来見通しの記述について】

本資料に記載されているJR東日本グループの現在の計画、戦略、確信などのうち、過去の事実以外のものはJR東日本グループの将来の業績に関する見通しの記述であり、現在入手可能な情報に基づく経営陣の仮定と確信に基づくものであります。

これらの将来見通しの記述は、既に知られているリスク、知られていないリスクや不確かさ、その他の要因などを含み、JR東日本グループの実際の経営成績、業績などはこのレポートに記載した見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には以下のようなものなどが含まれます。

- (1) 鉄道事業の現在の利用者数を維持または増加させるJR東日本グループの能力、
- (2) 鉄道事業その他の事業の収益性を改善するJR東日本グループの能力、
- (3) 鉄道事業以外の事業を拡大するJR東日本グループの能力、
- (4) 日本全体の経済情勢や法規制、日本政府の政策など。